

瀬戸内文化研究会だより第2号 (2015年夏号)

2015年8月3日発行 文責・内海清慈

瀬戸内文化研究会事務局：〒792-0831 新居浜市西連寺町1-9-8 (内海宅)

☎0897-44-5885

メール：setobun@mte.biglobe.ne.jp

現地見学会に行ってきました！！

公民館でお勉強会をするだけではなく、あっちこっちに出向いて行って、現地で様々な取り組みをされてる方とつながれるようになりたいと常々考えているので、先月の12日に、この会初めての試みということで、現地見学会に行ってきました。

まず午前中に立ち寄ったのが、旧波方町にある「海の交流センター」という所です。

以前、波方と広島県の竹原をフェリーの航路が結ばれていましたが、この航路が廃止となり、使われなくなった港務所を、交流拠点としようと言うことで去年の7月20日の海の日にオープンしたのが、この施設です。地元の物を売ったりする所を兼ねたカフェのスペースと、波方竹原航路の通っていたとも賑わっていた頃の写真や、航路にまつわる遺品を展示しているスペースと、会議室もあるそうです。7月25日付の愛媛新聞にこの施設の活用方法が課題となっているというような記事が出ていましたが、カフェのスペースなどは洒落た感じのいい施設なのに、人影もまばらで勿体ないなあと思いました。この会としても、今治方面の拠点として活用させて頂きながら、繋がって行って、応援させて頂けたらなあと思いました。

来島海峡の展望できるレストランで食事をしたりして、来島海峡の眺めを楽しみました。この時だけ雨が上がり、感激！！！！

一路、最終目的地の旧宮窪町にある村上水軍博物館へと向かいました。村上水軍のことは、この資料館に行けば、大体わかると言っても過言ではないと思われます。和田龍さんの「村上海賊の娘」という本が本屋大賞になったことで、お客さんも増え、展示内容も以前と比べて充実していると思いました。館長さん解説付きのビデオ上映は、必見です。



3月例会のご報告です。

去る3月15日に、新居浜公民館の2階の第1小会議室で例会を行いました。テーマは、「本能寺の変四国説の真相について」でした。長宗我部元親が、明智光秀の重臣である斎藤利三宛てに、本能寺の変の直前に送った書状が昨年6月に見つかったことで、一躍脚光を浴びた本能寺の変四国説。一度この会でも扱ってみたいテーマでしたので、この文書が展示されている高知県立歴史民俗資料館の図録や、文書の歴史的位置づけについて書かれた歴史読本という雑誌の論文を紹介させて頂きながら、お話させて頂きました。

本能寺の変四国説は、毛利氏と長宗我部氏の関係など中四国の広い視点に立って見当えねばならない点もあるし、この書状が光秀の目に留まったかどうかは定かではなく、この文書は本能寺の変四国説の決定打とはなり得ないという、楽しみにして参加された方には少し残念な思いをさせるご報告ではなかったかと

と思いますが、いやあ、やはり戦国時代のねたを扱うと、集まりが違いますね。

郷土史に関心のある会員外の方が4名も参加してくださいました。その内の1名である、原恭介さんは、これを機に、入会していただき、大変嬉しかったです。



5月例会のご報告です。

去る5月10日に、新居浜公民館の2階の第1小会議室で例会を行いました。

時には別子銅山のことを扱うのもいいかなと思ったもので、3年ほど前に、朝日新聞社新居浜支局の記者さんに譲っていただいた「源泉」という本を紹介させて頂きながら、別子銅山開坑頃の住友本家にまつわる話をさせて頂きました。住友初代の政友さんが残した家訓、「文殊院趣意書」が代々守られてきたことで、今日の住友があるという話は、何度読んでもぐっとくるものがありますし、田向重右衛門さんが切上長兵衛さんの案内で鞆の浦から船で川之江に渡ったことが鉱脈の発見につながる話の所では、切上長兵衛さんが鉱脈の発見を何故、立川銅山に知らせずに住友に知らせたか。それは、住友が山に生きる人々をととても大切にしている、意気を感じるものがあつたからという要必見の秘話もあるし、瀬戸内の歴史と関係ありと、考えるのは、私だけでしょうか。

